

会報神奈川

令和元年 5月15日発行

発行責任者 神奈川県神道青年会会長 小澤篤至

〒232-0006 横浜市南区南太田2-7-29 電話 (045)731-0668

— 奉祝 天皇陛下御即位 —

会長退任挨拶



神奈川県神道青年会

会長 小澤 篤至

畏くも上皇陛下の御譲位により、第百二十六代天皇陛下が御即位遊ばされましたこと大慶至極に存じます。万世一系の皇統を紡ぐ皇室を戴き、尊き大御心のもと国民が心豊かに日々の生活を営める、我が国の美しい国柄を誇り、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げます。御大典諸儀式の諸準備が滞りなく執り進められておられますこと、また、神宮におかれましては、諸祭恙なく斎行されておられますこと慶賀に存じます。

さて、当会第二十六代会長を仰せつかつて以来、神奈川県神社庁を始め県内宮司、先輩諸賢、友好団体各位には深いご理解と温かいお力添えを賜りましたこと厚く御礼申し上げます。また諸施策各事業を無事収める事が出来ましたこと、偏に、共に歩を進めて戴いた役員、会員各位のお陰と深謝致す次第でございます。

任期中は、平成の御代三十年の佳節に巡りあう幸を得て、三つの柱からなる御即位三十年奉祝記念事業を会員一丸となって推進し、恙なく完遂することが叶いました。

また今期は、「小さな大事の積み重ね」に主眼を置き、会務運営の在り方について共に向き合ってきました。成果の有無に拘らず、会を想い行先を見

据え協議を重ねたその一つ一つは、今後更なる発展を期す為の僅かながらも確かな一歩となる事と確信を致しております。

そして、時を同じくして佐野巖先輩が神道青年全国協議会の会長を務められました。会長輩出の単位会として、全国の青年神職同志との交流はより密となり、多くの学びと新たな刺激を会員一同が享受出来た事は感謝に堪えません。

明年、当会は創立七十周年の佳節を迎え、川辺会長のもと、守屋周年実行委員長を要に縷々記念事業が展開されます。会員各位には、一人ひとりが神奈川県神青として、青年神職としての気概と自覚を持ち、これまで以上に積極的な参画をお願い申し上げます。

結びに、任期中に先輩諸賢を始め関係各位より賜りましたご厚情に心より感謝申し上げますと共に、この先も当会への変わらぬご高誼、尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。会長退任にあたり御礼のご挨拶とさせていただきます。



平成30年度 慰労送別会



神奈川県神道青年会



<http://www.k-jinja.jp/seinenkai/>

会長就任挨拶

神奈川県神道青年会 第二十七代会長 川辺 浩司



謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げます。また、神宮におかれましては、諸祭恙なく斎行されておりますこと慶賀に存じ上げます。

さて、去る平成三十年十二月五日に開催された臨時総会に於きまして、会長にご選任を戴きました。神奈川県神道青年会第二十七代会長の大役を仰せ

つかる事となり、先輩諸賢が築き上げてこられた歴史と伝統を次代に受け継ぐべく、その重責に身の引き締まる思いでございます。もとより浅学非才の身ではありますが、新役員と一枚岩となつて斯界の発展の為に誠心誠意努力する所存でございます。先輩諸賢にはご指導ご鞭撻を、また会員各位にはご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

四月一日に安倍晋三内閣総理大臣は、新元号「令和」に関する談話の中で、日本最古の和歌集である『万葉集』を典拠にしたことを説明しながら、「一人一人の日本人が、明日への希望と

もに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いをこめた」と述べられました。核家族化やIT、人工知能の普及など社会環境の大きな変化において、私も青年神職は、歴史と伝統の継承を重んじながら、広い視野を持ち時代に即した対応にも努めなければなりません。しかし、変化への対応が求められる中でも、歴史と伝統の継承の基本となったのは人と人との強い絆であり、それは今後も変わることはありません。当会においても、会員それぞれが神職としての初心を忘れず、ともに学び成長する会となるよう努めて参りたいと思います。

結びに当会は、来年初立七十周年の佳節を迎えます。先輩諸賢が築かれてきたご足跡を踏まえ、斯界の尖兵として様々な周年事業に挑戦して参ります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

民俗工芸オリジナル

御清め箱(おみくじ用)

材質 桐材
寸法 開口30×奥行30×高さ46cm

7,800円

株式会社 民俗工芸

TEL 0120-534-550
FAX 0120-872-550

〒857-1162 長崎県佐世保市御本町15-1
土曜日も平常通り営業致しております。

御清め箱

引出し付

新製品

繊細な技術と日本の伝統を今に継ぐ
授與品の奉製

古都 奈良の
株式会社 大和奉神堂

〒630-8434 奈良市山町782番地

TEL 0742-62-3235(代)

FAX 0742-62-3228

E-mail: hoshindo782@yahoo.co.jp

HomePage: <http://www.yamato-hoshindo.com/>

各種御守・授与品全般・デザイン制作承ります。

にしき
西紀
有限会社

TEL: 072-810-8133

FAX: 0120-71-8135

FAX 24 時間受付

〒576-0034 大阪府交野市天野が原町 4-1-7

メール: mytom@chive.ocn.ne.jp

社殿造営・神棚神具製造

有限会社 俵田屋 ひょうたや

代表取締役 田中弘紀

〒516-0026
伊勢市宇治浦田二丁目1-10ノ38
電話 〇五九六 二三 三九〇五
FAX 〇五九六 二三 三九〇八

大嘗祭と天神地祇

國學院大學 神道文化学部

准 教 授 加 瀬 直 弥

御代替わりに伴う祭祀行事の中心は即位礼と大嘗祭である。その大嘗祭の祭神は天照大神をはじめとする天神地祇、つまり神々とされる。「薦享」という、十一月に天皇が自ら行う供膳の祭儀（現代では「大嘗宮の儀」と呼称）の際、天照大神とともに天神地祇に対して祈願する点は、中世の儀式次第に関する記録に明らかである。

天神地祇に対する祭祀が、即位する天皇にとっていかに重要だったかについては、神武天皇の東征の故事から分かる。『日本書紀』に基づく、大和の菟田で八十梟帥、つまり数多の猛者に大和盆地入りを阻まれた際、天皇は天つ神の夢告に従い、敵陣突破という困難を経て得た天香山の土で祭器を作り、丹生の川上で天神地祇を自ら祀ったとされる。その結果は言うまでもなからう。この一連の流れは、天皇即位の条件に、神々の助けが含まれるという認識が存在していたことを示唆している。

事実、古代の朝廷の人々も、大嘗祭での天神地祇へのまつりを重要視していた。薦享を終えた後、天皇は節会すなわち直会を三日にわたり開くが、その最初に、中臣と呼ばれる臣下が天神寿詞を奏上し、天皇の治世を寿ぎ、親王から国の民に至るまでの繁栄と精勤を願う。天神寿詞には、臣下の立場で捉えた大嘗祭の由緒や目的が籠められている。

この寿詞には、「天つ社、国つ社と称辞竟へ奉る皇神等」という表現がある。これを意識すると、天神地祇、もう少し具体的にいえば、朝廷の祭祀対象とする神社の祭神全てに他ならない。寿詞は、その神々に「祭祀を受け入れてもらい、天皇の治世を長久繁栄にしていたく」という趣旨の文言が続く。臣下も、大嘗祭が天神地祇のための祭祀として理解すべきだったと分かる。

古代の大嘗祭では天神地祇奉幣の儀が制度化されていた。これは薦享に先立つ二か月ほど前の八月下旬に、奉幣使を全国の官社（『延喜式神名帳』に載った官社が「式内社」）に遣わし、幣帛を奉るというものである。薦享当日の朝にも、特定の全国の諸社祭神に対し、幣帛が改めて用意される定めであった。現実的な対象が限定されていたとはいえ、大嘗祭では、人々の目に触れる形での、神社の神々を広く対象とした祭儀も行われていたのである。全国神社に関わる人々にとって、大嘗祭は縁遠い秘儀などではない。

天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業

パネル展

「平成の御代を振り返る」

総務局局長 川辺浩司

当会が昨年より進めていた天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業の結びとして、神奈川県神社庁、神奈川県神社総代会連合会のご後援のもと、平成三十一年二月十九日、二十日の両日にパネル展「平成の御代を振り返る」を横浜新都市プラザにて開催致しました。

このパネル展は、天皇陛下下の御公務や御皇室に関わる御写真から、御即位以降、常に国運の一層の進展と世界の平和、人類福祉の増進を切に願われ、大東亜戦争の戦没者の慰霊や災害による被災地への御訪問等、常に私ども国民に寄り添われてきた天皇陛下下の三十年間の御姿を多くの方々にご理解頂き、更なる御皇室の弥栄と国の繁栄を祈念する一助となるよう企画したものです。

パネル展では、宮内庁より借用した宮中祭祀を始めとした御公務、行幸啓、そして被災地の御訪問、御皇室に関する御写真四十五点を展示し、宮中祭祀の説明や歴代天皇の御系譜、平成の御代における天皇陛下下の御足跡をまとめ



た年表、御製等も御写真に合わせ紹介致しました。また神社本庁から平成御大典記録及び『平成御大礼絵巻』の複写パネルの展示のご協力を頂き、充実した内容となりました。

二日間にわたり大変多くの方々にお越し頂き、拝観者お一人お一人が熱心に展示内容をご覧になっていました。また、神社本庁発行の御代替りに関わる教化資料も約二千部お渡しすることができ、御代替りへの関心の高さを肌

で感じる事ができました。

皇居勤労奉仕（平成三十年六月実施）、宮内庁掌典職掌典長楠本祐一先生のご講演（平成三十年九月実施）、そしてこの度のパネル展と二連の天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業を、会員各位のご協力のもと滞りなく執り行うことができました。今後も、当会で行われる各事業を会員相互が一致団結し取り組んで参りたいと思います。



シリーズ 言霊



さきくませ

神奈川県神道青年会 第二十代会長

比々多神社 禰宜 永井 武義

光格天皇以来約二百年ぶりという御譲位による御代替わりを迎え、皆様とともに敬仰奉祝致します。そして、宝祚天壤無窮を祈りまつり、御大典の諸儀式が国家的重儀として、我が国の伝統に基づいて行われることを願う次第です。

さて、私が神道青年会に在籍した期間は僅か十年余りですが、顧みすれば渉外部、企画部に身を置くばかりか、副会長、単位会長として、有為な多くの仲間と活動を共にしました。大事業であった創立五十周年や五十五周年の記念誌を開けば、語り尽くせないほどの思い出が刻まれ、今尚在り在りと当時の様子が蘇ってきます。また、縁あって神道青年全国協議会の副会長として、本当に貴重な経験を積ませて頂きました。

後輩諸君は「神職青年会」ではなく、「神道青年会」であるということを考えたことがあるでしょうか。組織は先輩諸賢が切り開き、それを脈脈と受け継ぎ発展し、間もなく七十年に及ぼんとするわけですが、戦後の困難の中で立ち上がった精神にこそ立ち返るべきであり、神道の精神とは何かということを命題として事業を恢弘して欲しいと思います。

「神道青年の歌」の歌詞には、「生ひ立つわれら、栄えあるわれら、はばたくわれら」、また、「美はしき山河」には、「ふるひたてよ、こぞりたてよ、虹を懸けよ、望みあれよ」とあり、まさしく斯界の尖兵に相応しい、希望に溢れた幸先の良い語句であります。

行矣

永井武義 謹書

私の好きな言葉で、荀子の勸学に「青は藍より出でて藍より青し」(出藍の誉れ)とあります。定年退会した身だから言えることですが、青年時代に夢中に取り組むことの大切さを表しているように思えます。恥ずかしながら、昨今は意気地が衰え始めたのか、頭よりも行動が二歩も三歩も遅れることが多々あります。是非とも、青い人だから出来ること、青い人にしか出来ないことに、仲間と共に気概をもって挑んで下さい。

今後とも神道青年会の発展に期待を寄せ、応援する一人として、天壤無窮の神勅にある「行矣」(さきくませ)の言葉を添えて、「シリーズ言霊」への寄稿と致します。

創業百有余年

— 伝統の技術を活かした授与品作り —

神奈川県神社庁をはじめ
全国各神社でご利用頂いております。

神符・守札・木札・金欄御守・御朱印帳
交通安全守・彫り木守・その他各種授与品

ご一報いただければカタログ送付致します

株式会社 **丸井紙店** TEL 055-272-0136
FAX 055-272-3966

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門763

祈りのかたちに
京の伝統と真心を込めて

御社寺ならでいの御守をオーダーメイドで奉製いたします
色・柄・形などお気軽に御相談ください



京都奉製株式会社
御社寺ならでいの御守をオーダーメイドで奉製いたします

京都本社 / 東京営業所 / 仙台営業所 / 福岡営業所
TEL 0120-164124 (イロヨイニシキ)
ホームページ http://www.omamori.co.jp

御神田だより



抜穂祭・稲刈り

企画部 部長 目黒久仁彦

平成三十年十月二十日、当会御神田において抜穂祭、稲刈りを行いました。この稲作事業は青少年の育成を念頭に、神道にとって重要な稲作を体験し、我々が日々当たり前のように口にしてお米がどのように作られるかを学ぶ機会として長年続けられてきました。

本年も会員を始め、まほろば教育事業団、そして一般参加者、約六十名の皆様にご参加を頂き、賑々しく抜穂祭事と稲刈りを行う事が出来ました。近年、日本の原風景である田園の姿が失

われるなか、子供たちが自然と触れ合う機会も減少をしております。そうした折に、水や土、動植物に肌で触れる本事業は、子供たちにとって貴重な機会になったと思います。稲刈りの合間に、笑顔で虫や蛙を追いか回り子供たちの姿はとても印象的でした。日本古来の伝統である稲作と、祈念と感謝をささげる神事の体験が、子供たちの記憶に残り、次代へ継承する一助になればと願います。

また、多くの方の手によって刈り取られた稲は神宮の神嘗祭に際し、懸税としてお納めをさせて頂きました。そ



して、県内の各神社にも新嘗祭の折に御神前に奉献を頂くべく、献上させて頂きました。

連綿と続く稲作の伝統、そして神業が末永く継承されていく事を願い、次年度も稲作の体験事業を行っていきたいと存じます。

今回の献米発送にあたり、お送りした一部の袋に破損があり、ご迷惑をお掛けし、大変申し訳なく、紙面をお借りし心よりお詫び申し上げます。



神祭具 授与品 記念品 奉製

神 路 社

株式会社 神路社

本社 〒516-8611 三重県伊勢市岩淵2丁目5番29号(私有地第26号)
電話番号 0596-24-5858 / FAX 0596-24-5110
E-mail info@kamijisya.co.jp

神 苑(東京本営業所)
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1丁目26番14号 ACTビル4階
電話番号 03-3280-6720 / FAX 03-3280-6721
E-mail info-tokyo@kamijisya.co.jp
http://www.kamijisya.co.jp

御装束・御 簾・神 輿
神 祭 具 調 度

宮内庁御用達 京装束・京神具の店

有限会社 竹 重

〒600-8324 京都府京都市下京区東側町510番地
Tel 075-371-0394(代)
Fax 075-341-6966
ご注文専用フリーダイヤル 0120-37-0394

東日本大震災被災地復興支援並びに視察活動

第二回「学びのプログラム」

教養部 部長 柳田崇道

平成三十年十月九日・十日の二日間に亘り東日本大震災から八年経過した被災地の復興状況の視察と、共に被災された神社の境内清掃奉仕の為、福島県双葉郡浪江町やいわき市久ノ浜などを訪問致しました。当会OB 宮本佳昭先輩をはじめ当会会員、神社役員、総勢十七名が参加し、福島県神道青年会の多大なるご協力のもと大変有意義な研修となりました。

まず初日午前中、浪江町鎮座の初發神社を訪問致しました。棚宜の田村貴正様を始め、多くの福島県神道青年会の皆様にお迎え頂き正式参拝をさせて頂きました。この時、御社殿は再建の真最中でありましたが、五ヶ月後の本年三月には無事竣工を迎えられました。特に浪江町は原発の影響で復興が遅々として進まず、大震災より八年を経て再建・竣工となりましたことは、氏子の方々にも万感の思いがあったのではないかと思います。

続いて、バス車中より近隣の神社や自治体の現状についてお話を伺いながら数社の神社を参拝致しました。午後からは浪江町海岸沿いの若野神社で福

島県神道青年会と合同の清掃奉仕を実施致しました。若野神社は津波で基礎部分以外は全て流されましたが、岡山県神社庁より奉納された仮社殿が建立され玉石も敷き詰められており、整備が進んでいる状況を実感することができました。

二日目の午前中は、いわき市久ノ浜で震災の語り部をされている方より震災当日の状況や復興についてのお話を伺いながら各所をご案内戴き、地域の神社にも参拝させて頂きました。いわき市は甚大な被害を受けながらもあまり報道されず、復興にも多くの時間を要したとのお話もあり防災の重要性を再認識致しました。

午後は、福島県神社庁にて福島県神道青年会会長 宮川淳様より神道青年会の復興支援活動について伺い、続いて福島県神社庁教化部長 佐藤大和様より神社庁の震災に関わる活動についてのご講話を賜りました。震災後、災害対策本部立ち上げに至る経緯、また関係団体との連携や情報収集など、復興への取り組みを具体例を交え詳細にご指示戴き、またそれには多くの困難が伴ったことにも触れられ、神奈川県災害対策にとって非常に意義深いお話を拝聴致しました。

二日間に亘る研修では、被災地の復興状況を直接見て、現地の方から話を伺う事が出来ました。大災害に向けて、迅速な防災対策の必要性を痛感する研修となりました。



神奈川県・福島県交流事業

親睦部 副部長 隅川由紀恵

平成三十一年三月十六日、十七日に、福島県双葉郡浪江町にて福島県神道青年会との交流事業を行いました。当会からは、小澤会長をはじめ会員家族も含め十五名での参加となりました。福島県神道青年会の参加者は、会員と家族を含めて二十三名でした。

十六日の夜には、宿泊施設でもある「福島県いこいの村 なみえ」にて懇親会を行い、大人はもとより子供達も楽しく和やかな時間を過ごしました。

翌十七日には、東日本大震災発生当時の福島県神道青年会副会長であり、その後も当会と親交の厚い田村貴正様が禰宜を務める初發神社の修復工事竣工奉告祭が執り行われました。竣工奉告祭には小澤会長が参列し、会員も拝殿前より拝礼をしました。新社殿は、震災で倒壊した社殿の古い柱や梁の彫刻等を残しており、真新しい壁との調和が大変美しい建物でした。

神振行事として、華道家假屋崎省吾氏による献花、雅楽奉納、人形劇や浪江町出身のシンガーソングライター水原ゆき氏のステージが行われました。また境内には屋台が十店ほど立ち並び、射的やスーパースクールなどが行われ、子供達の笑い声に満ち溢れ

ていました。我々も、屋台の運営などのお手伝いが叶い、福島県神道青年会の方々と協力して縁日を盛り上げることが出来ました。

当日は地元の住民をはじめ、遠方からも多くの方が参拝に訪れていました。こうした行事を機に、被災された地域に心を寄せ続け、様々な復興支援活動に取り組む方々が増えていけばと思います。

二日間を通して、両単位会同士、またその家族との親睦を益々深めることが出来、大変有意義な事業となりました。



活動報告

暑気払い

親睦部 部長 松尾寛一

平成三十年九月六日、横浜モアーズ屋上にありますアロハバーベキュービアガーデンに於いて、会員三十四名の参加を得て「暑気払い」を開催致しました。

これまで毎年に、恒例の親睦事業としての「ボウリング大会」を行なっておりましたが、今年は「会員がより気軽に参加し得る事業を模索してみよ



う」と、約三ヶ月間、拡大役員会での呼びかけをきっかけにメーリングなどを通して全会員から幅広く事業案を募集する形を取らせて頂きました。スポーツ・演劇等の鑑賞、温泉、屋形船など色々な意見を頂戴した中で、今回は最終的にビアガーデンでの開催に至った次第です。

これからも親睦部では、会員相互の交流を広める機会はもちろんのこと、情報交換の場など企画し、意義の有る貴重な時間を過ごせる事業展開を心懸けて参りたいと思います。

臨時総会

事務局 局長 佐野顕次

平成三十年十二月五日、横浜のザ・クラブ・オブ・エクセレントコーストを会場に当会第十六代会長 八幡大神 宮司 小泉倫孝先輩のご臨席を賜り「臨時総会」が開催されました。

議長には総務局の利根伸介君が指名され、出席報告を受け総会の成立を宣言致しました。

議事では、小澤会長より次期会長に総務局局長の川辺浩司君（横浜市天神社 宮司）が推薦され、役員会推挙の旨も報告され、盛大な拍手を以て承認されました。

川辺新会長からは迎えます御代替わ

りと御大典、また、当会の創立七十年を見据えた抱負が語られ、会員一同、間近に控える大きな節目を前に、改めて心を一つに青年会活動を邁進していくことを決意致しました。



賛助会員交歓会・忘年会

渉外部 副部長 西山桂子

平成三十年十二月五日、ザ・クラブ・オブ・エクセレントコーストにて臨時総会に引き続き、「賛助会員交歓会・忘年会」が開催されました。賛助会員の諸先輩方、神奈川県神興保存會の皆様、また顧問の先輩方にご臨席を賜り、会員同士一年間を振り返り、大いに盛り上がりました。終始笑い声が絶えることなく、あつという間に閉会の時間となりました。会員それぞれ来年の活動に向けて英気を養う貴重な一日となりました。

新年会

親睦部 副部長 阿部友哉

一月二十九日、鮮や一夜横浜西口駅前店に於いて恒例の「新年会」を開催致しました。

小澤会長をはじめ四十七名と多くの会員が参加し、賑やかな新年会となりました。守屋副会長発声のもと乾杯し、終始和気藹々とした雰囲気の中、各神社に於いての年末年始の慰労や情報交換をするなど、有意義な時間を過ごしました。

今期も残りわずかとなる中で互いに親睦を深め合い、パネル展「平成の御



代を振り返る」や慰労送別会など小澤会長期の事業完遂に向け、また国をあげての一大事業である御代替わりに向け、神奈川神青の団結力がより一層深められた宴となりました。



慰労送別会

親睦部 副部長 伊藤直晃

平成三十年三月六日、クルーズ・クルーズYOKOHAMAに於て、「慰労送別会」を開催致しました。

ご来賓として、守山和宏先輩をはじめ六名の顧問にご臨席賜り、卒業・退会会員十三名、会員四十五名と多くのご参加を頂きました。

当会の様々な事業で尽力し、会を牽

引してきた方々を送り出すために大勢が集まり、思い出話や今後の抱負を語り合い、大いに盛り上がりました。卒業する先輩方そして顧問の方から励ましの言葉を戴き、今年度の青年会活動の慰労と退会者の今後益々の活躍を祈念致しました。お世話になった先輩方や共に活動してきた仲間達の退会は大変寂しく感じますが、今後も神職として互いに研鑽し合い、また当会のこれからの歩みを見守って頂ければ幸いです。



天皇陛下御即位三十年奉祝記念大会

広報部 副部長 佐野若菜

平成三十年十一月二十九日、「天皇陛下御即位三十年奉祝記念大会」が県内神社関係者、御来賓約一千名参加のもと県内ホールにて盛大に開催されました。

第一部の奉祝雅楽演奏、第二部の記念式典、第三部の元侍従長 渡邊允先生によるご講演の三部構成となる本大会に、我々青年会員は会場設営、各種準備、案内等のお手伝いをしながら参加し、渡邊先生によるご講演を拝聴する機会にも恵まれました。

天皇皇后両陛下のお側で長年お仕え



になっていた先生のお話では、両陛下の日常のご生活や、そのお人柄がよく理解できる大変貴重なものでした。皇室の有り難さを少しでも多く伝えていけるよう、我々青年神職が真摯に神明奉仕に励もうと気持ち引き締まる大会助勢でした。

天皇陛下御即位三十年奉祝神奈川県委員会設立総会・天皇陛下御即位三十年奉祝神奈川県民の集い

親睦部 副部長 片岡昂也

平成三十年一月二十二日、伊勢山皇大神宮に於いて、「天皇陛下御即位三十年奉祝神奈川県委員会設立総会」が開催され、奉祝委員として当会より小澤会長が出席致しました。

本奉祝委員会設立を受け、二月十一日には、横浜市開港記念会館に於いて「天皇陛下御即位三十年奉祝神奈川県民の集い」が開催され、当会より会長を始め九名にて参加して参りました。当日は、薄っすらと小雪が舞う生憎の天候ではありましたが、五百名収用の大講堂を始め、各研修室を使用するなど、館内は多くの参加者で溢れ、国会・市町村議会議員・首長を始め県民挙って天皇陛下御即位三十年の佳節をお祝い申し上げました。

本奉祝委員会は五月を以て「天皇陛

**天皇陛下御即位三十年
神奈川県奉祝神輿パレード**
教養部 副部長 小清水彩乃

平成三十年三月十七日、みなとみらい地区にて「天皇陛下御即位三十年神

下御即位奉祝神奈川県委員会」へと名称を変え、今後は御代替わり奉祝事業の推進がなされて参ります。当会と致しましても積極的な事業参画のもと青年神職として成すべき役割をしっかりと果たして参りたいと存じます。



奈川県奉祝神輿パレード」が執り行われました。

このパレードは、天皇陛下御即位三十年をお祝いし、御在位中の大御心に感謝の真心を捧げるべく「天皇陛下御即位三十年奉祝神奈川県委員会」と「同奉祝神輿パレード実行委員会」が中心となり、県内の神輿会八団体の参加のもと実現したものです。

午後三時から当会会員による祭員奉仕のもと神輿の「御霊入れ」を行い、続いて出発式。委員や来賓の挨拶の後、聖寿萬歳を合図にパレードの出発となりました。ひと月程前から県民ごぞつての参加を呼びかけ、当日は一千本用意した小旗も、パレード開始直後、全て無くなりました。



「天皇陛下万歳」の掛け声と共に、赤レンガ倉庫臨時駐車場から象の鼻パークまでの道のりを神輿や行進の参加者総勢四千人以上が練り歩き、沿道の人々と共に御即位三十年を寿ぎました。

閉会式でも聖寿萬歳が行われ、奉祝神輿保存會による謝辞と三本締めを以って無事修められました。

**神青協一都七県協議会
天皇陛下御即位三十年奉祝
皇室御安泰祈願祭**
渉外部 部長 小峰敏風

神青協一都七県協議会主催にて、天皇陛下の御長寿と皇室の弥栄、ついで我が国の繁栄を祈念すべく「皇室御安泰祈願祭」が平成三十一年二月五日、午後四時より日枝神社（東京都千代田区永田町鎮座）に於いて、執り行われました。

斎主を日枝神社宮司 宮西修治様がお務めになられ、以下祭員、伶人、舞姫を神青協一都七県の各単体会会長並びに会員で奉仕員が構成され、当会からは小澤会長が祭員として、また小峰が伶人として二十一名でご奉仕させて頂きました。宮西様にはご多忙にも関わらず、当日・別日の習礼にもお越し戴き、「祭祀の厳修」には習礼が大事

であること身を以てお教え頂きました。当日は恙なく祭典を執り行い、祈りの誠が捧げられたことをここに報告致します。



**神青協神宮啓発委員会
伊勢の神宮写真展**
神宮啓発委員会 副委員長 守屋隆広

平成三十年十二月十日より十二日までの三日間、東京日本橋にある三重テラス（三重県アンテナショップ）において神道青年全国協議会主催（担当神宮啓発委員会）による「伊勢の神宮



写真展」が開催されました。
当日は、写真展示（写真家 Kanken 氏・加藤直人氏・南川三治郎氏提供）の他に、雅楽衣装の著装体験、忌火を起すための火鑽具体験の他、神道青年全国協議会神宮啓発委員による神宮勉強会や東京都雅楽クラブご奉仕により雅楽生演奏や楽器体験も行われました。

来場者数は、三日間で一、二二三名（二日目四〇一名・二日目四〇三名・三日目四一八名）を数え、場内では、写真を鑑賞するだけでなく、火鑽体験で笑顔を見せるお子さんや千早や浄衣を著装して写真を撮ったり、説明会の後にも神宮啓発委員に神宮について質問する方など、各所で皆さんの満足する様子を見ることができました。

神青協一都七県協議会 研修会

事務局 局員 小泉匡史

平成三十年十二月十一日、神青協一都七県協議会による研修会が、明治神宮社務所講堂において開催され、当会からは小澤会長以下六名の会員が参加致しました。

「明治維新百五十年」を主題として、明治神宮国際神道文化研究所主任研究委員の打越孝明先生をお迎えしてご講義を賜りました。

ご講義では、嘉永五年九月二十二日、明治天皇御生誕の話から始まりました。慶応四年七月十七日には、江戸を東京と改称する詔が下され、それと同時に「東京遷都」となり、わが国は新たな一歩を踏み出しました。同四年八月二十七日、京都御所の紫宸殿において即位礼が行われ、翌月、元号が「慶応」から「明治」へと改められました。

「大化」に始まり、「大宝」から絶えることなく続く元号は、わが国の貴重な伝統文化であります。従来は、祥瑞や災異、また三革（辛酉、甲子、戊辰）など種々の理由でしばしば改元されることもありましたが、明治改元をもつて「一世一元の制」が採用されることとなりました。

明治時代は「文明開化」の名のもと

で近代化を進めた歴史の一大転機であり、大正、昭和、平成、そして令和へ連綿と続いていきます。

打越先生のご講義は、時代を共に旅するような内容で大変わかりやすく、意義深い研修となりました。

神道青年全国協議会 臨時総会

副会長 山本喜道

平成三十年十一月二十日、神社本庁二階大講堂に於いて「神道青年全国協議会 臨時総会」が開催されました。当会より小澤会長、守屋副会長、佐野事務局長、佐野監事、古木相談役と共に六名で出席致しました。

冒頭の開会式では神社本庁総務部長荒井実様にご来賓としてご挨拶を賜りました。

総会の議事において、創立七十周年記念事業案並びに特別会計予算案の説明があり承認され、次に次期会長並びに監事選出の議事が審議され、次期会長に中国地区鳥取県金田祐季さんが選出され承認されました。続いて次期監事には東海地区岐阜県浅野将伯さん、北陸地区新潟県小林慶直さん、東北地区岩手県藤原大修さんが選出され承認されました。

金田祐季神青協次期会長からの神青



協創立七十周年、御代替り、東京オリピック、そして東日本大震災より十年を迎えるなど大変重要な期になりますが、全国の会員とともに事業を展開していくという熱い言葉に感銘を受けました。

また佐野神青協会長より、「次期会長を選出することが、会長としての一つの大きな仕事」とのお話があり、大役を次期会長に引き継ぎすることへの思いを語られました。

その後、沖縄県波照間島にある「聖寿奉祝の碑」の修復及び清掃作業の報告、インスタフォトコンテストの事業報告があり、臨時総会の閉会となりました。

神道青年全国協議会 中央研修会

監事 佐野 巖

平成三十年度「神道青年全国協議会中央研修会」が、「氏子と共に歩む時」過去・現在・未来の中で」を主題とし、平成三十一年三月十三日、十四日の両日、茨城県水戸市の水戸プラザホテルにて開催され、全国各地より約三百五十名の会員が参集しました。

初日の第一講には鹿島神宮宮司 鹿島則良先生に「神に仕えて想うこと」鹿島の神と水戸の教え、そして鹿島神宮の中今」と題し、自身の半生を振り返り神社を取り巻く氏子との関係について講演を頂きました。第二講には脳科学者で東日本国際大学教授の中野信子先生から「現代社会と氏子」科学の力と祈りの力」と題し、日本人の繋いできたDNAが宗教性の高い国を作ってきた、日本ほど自然の息吹に神聖性を見出す国はないとの講演を頂きました。

二日目の第三講では「氏子と未来とまちづくり」神社を中心とした地域活性化の可能性」との演題でアニメ「ガールズ&パンツァー」の製作や大洗町の観光などに関わる三名によるパネルディスカッションが開催され、まちづくりの成果については偶然の産物



であり、結果や目的を求めるのではなく、人同士の繋がりが成し得たことであると強調されていました。

尚、今年の中央研修会は関東地区が主管であり、我々神奈川県神道青年会は、日頃活動を共にする神青協一都七県協議会の協力のもと、スタッフとして全国の会員をお迎えしました。

誠実奉仕、信用第一

神社本庁 御用達
國學院大學 推薦店
明治神宮 指定店

瀬戸装束店

〔営業品目〕

- 神職御装束 ●神奈装束 ●神社調度
- 祭器具のすべて ●神前結婚式場神殿設備

東京都中野区中野3丁目10番5号 取引銀行
〒164-0001 電話 03-3381-4927 三菱UFJ銀行中野駅前支店
FAX 03-3381-4927 普通預金No.0359145
郵便振替口座 00120-7-557201

誠実と真心で奉仕する

御守・授与品・参拝記念品奉製

天然石厄除開運腕輪輪守・天然石みくじ

御一報次第カタログ御送り致します。

グリーン産商株式会社

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL (06) 6702-6009 (代表) FAX 0120-34-2996

内宮に一番近い宿

早朝参拝のご案内をしております

ゆとりとやすらぎの宿

神宮会館

伊勢神宮崇敬会

— ご宿泊に関するお問い合わせ —

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL.0596-22-0001/FAX.0596-22-1517

<http://www.jingukaikan.jp>

”土佐絵自由自在”「既製サイズで我慢・・・」の時代は終わりました。
土佐絵で作る神具木工品は

森の道具屋

〒781-2120 高知県吾川郡いの町枝川177-3

TEL 088-850-4087 FAX 088-850-4076

URL <http://www.morinodouguya.ecweb.jp>

E-mail morinodouguya@titan.ocn.ne.jp

平成 30 年 度 後 期 活 動 報 告

10月

2日

第二十二回神青協一都七県協議会神職野球大会（大井ふ頭海浜公園）

9～10日

学びのプログラム 福島県浪江町（福島県浪江町、いわき市久之浜、郡山市）

19日

神青協一都七県協議会第三回定例会議（神社本庁）

20日

青少年育成事業 稲刈り（御神田）

21日

第六回拡大役員会（伊勢山皇大神宮）

11月

8日

神青協一都七県協議会親睦ゴルフ大会（皐月ゴルフ倶楽部佐野コース）

19日

第七回拡大役員会（伊勢山皇大神宮）

20日

神青協平成三十年度臨時総会（神社本庁）

28日

神宮神道青年会神奈川県神職野球同好会野球親善試合（横須賀スタジアム）

29日

天皇陛下御即位三十年奉祝記念大会助勢（関内ホール）

12月

4日

松田良昭県議「神奈川元気フォーラム」助勢（ロースホテル横浜）

5日

臨時総会・賛助会員交歓会・忘年会（ザ・クラブ・オブ・エクセレントコースト）

11日

神青協一都七県協議会第四回定例会議・研修会・忘年会（明治神宮社務所講堂・大衆居酒屋代々木横丁）

9～12日

伊勢の神宮写真展（三重テラス・日本橋）

1月

29日

新年会（鮮や一夜 横浜西口駅前店）

2月

5日

神青協一都七県協議会第五回定例会議並びに顧問会・新年会（赤坂日枝神社社務所・日枝あかさか）

5日

皇室御安泰祈願祭（赤坂日枝神社）

11日

天皇陛下御即位三十年奉祝神奈川県民の集い助勢（横浜開港記念会館）

13日

第八回拡大役員会（稲毛神社）

17日

神奈川縣神輿保存會新年会（横浜ロイヤルパークホテル）

19～20日

天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業パネル展（そごう新都市プラザ）

3月

6日

顧問会・慰労送別会（クルーズクルーズ横浜）

12日

神青協中央研修会前日交流会（水戸プラザホテル）

13～14日

神青協中央研修会（水戸プラザホテル）

16～17日

福島県神道青年会会員交流会（福島県いこいの村なみえ 初發神社）

17日

天皇陛下御即位三十年奉祝神輿パレード助勢（赤レンガ倉庫～象の鼻パーク）

19日

第九回拡大役員会（伊勢山皇大神宮）



箱根神社 新井 賢
第二子 次男 惇平君
平成三十一年三月二十九日生まれ



寒川神社 犬上 互佑
長女 智景さん
平成三十一年二月十九日生まれ



伊勢山皇大神宮 利根 伸介
長女 和佳奈さん
平成三十一年十月三十一日生まれ

◇子供誕生

平成三十一年四月十四日 結婚

腰掛神社 石腰 浩之

鶴岡八幡宮 宮本 龍一
平成三十一年二月九日 結婚

鶴岡八幡宮 稲向 智文
平成三十一年二月九日 結婚

◇結婚

慶弔報告

◇退任顧問

退任顧問・定年退会会員

◇定年退会会員

五社神社	栗原 拓児
鈴鹿明神社	古木 普絵
白幡八幡大神	小泉 昌美
白旗神社	鈴木 大次
比々多神社	山田 隆
弥生神社	池田奈津江
溝口神社	鈴木 敬一
潮田神社	萩原 伴雄
杉山神社	上野 力
杉山神社	平岡 好晃
若宮八幡宮	中村 喜江
八幡神社	永井 真人
神鳥前川神社	石神 郁馬
報徳二宮神社	熊谷 和真
白笹稲荷神社	田中 靖浩
寒川神社	中西 正史
富岡八幡宮	佐野 巖
杉山神社	中村 聡
春日神社	山口 真弓
平塚八幡宮	金子 和憲
日々神社	鈴木 康成

入会・退会会員

◇入会

神鳥前川神社 山岸 大祐

座間神社 遠藤 茂明

松尾神社 島岡 昇平

日枝神社 本道 友里

寒川神社 西井 可奈

寒川神社 鯉登 敬紀

寒川神社 内田 暢彦

◇退会

八幡神社 佐藤 拓也

富岡八幡宮 久我 洗輔

江島神社 鈴木 淳太

寒川神社 中村 陽宏

杉山神社 佐藤 史久

鶴岡八幡宮 三嶋 啓史

鶴岡八幡宮 阿蘇 大祐

鶴岡八幡宮 高梨 瑞貴

鶴岡八幡宮 吉澤 明宏

鶴岡八幡宮 大高 直樹

(敬称略)

植物と神道

梅 ウメ



『初春の令月にして気淑く風和らぎ』

梅は鏡前の粉を披き蘭は珮後の香を薫らす』

『万葉集』巻五―梅の花の歌三十二首并せて序より

時あたかも新春の好き月、空気は美しく、風はやわらかに、

梅は美女の鏡の前に装う白粉のごとく白く咲き

蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている

(中西進『万葉集全訳注原文付き』より)

新元号「令和」の由来となり、一躍有名になったこの万葉集の一節は、天平二年（七三〇）正月十三日（太陽暦二月八日）、太宰権帥大伴旅人が邸宅にて催した梅の花の宴で、太宰府や管内諸国の著名人が集まり「梅の花の歌三十二首」が詠まれたときの序文にあたります。序の結びには「中国にも多くの落梅の詩があるように、この庭の梅を歌に詠もうではないか」と結んでおり、当時の文化人の意気込みが、ひしひしと伝わってきます。

「梅」は、奈良時代以前に、主として薬木として中国から渡来したバラ科の落葉高木です。伝来した当初は、ごく数種の白花だけでしたが、後に紅梅系も入り、さらに日本人の繊細な感性による改良と自然交雑や突然変異も加わり、その種類は飛躍的に伸び、現在では数百種に上ります。

日本では「松竹梅」として吉祥の象徴としてのイメージが強いですが、中国では果実が食用や薬用として珍重されたばかりでなく、厳寒中に花を咲かせることから、寒さに耐え緑を保つ「松」や「竹」とともに、「歳寒三友」として「清廉潔白・節操」という文人の理想を表現したものとされてきました。

春のことぶれを感じさせる縁起の良い花であり、また日本食においても欠かせない存在である梅は、日本人に愛され、さらに魅力を増した植物と言えるでしょう。

(広報部 早川道子)

参考文献

國學院大學「万葉の花の会」『植物で見る万葉の世界』（平成十六年九月八日「万葉花の会」事務局）、宮地たか・菅野美奈子『やまと万葉の花万葉の花図典』（平成九年十一月十五日(株)京都書院)

～事業品のご案内～

境内の彩りに

朱傘 32,000 円／朱傘台座 28,000 円

【朱傘】
直径 200cm、高さ 254cm、台座使用時 255cm
【台座】
上正方 29cm×29cm、下正方 47cm×47cm、
高さ 55cm、穴内径 4.8cm

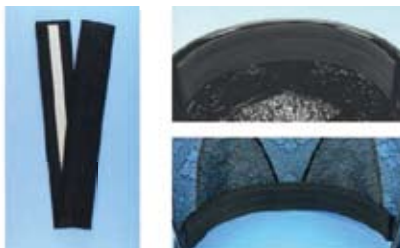
祭典や結婚式の参進、七五三に…

※縁台は付属しておりません

烏帽子用汗取りパッド

5 枚入り 2,000 円

東レの抗菌防臭素材セベリスを使用したパッド。
汗や皮脂のべとつき不快感を軽減します。
化粧移りが気になる女性の額当や冠にもオススメです。



※額当の幅に合わせカットしております

お食い初めセット(化粧箱入り)

【化粧箱のサイズ】
膳なし 21.2cm×19.6cm×7cm
膳あり 24.3cm×20.7cm×11.5cm

膳なし 1,300 円／膳あり 1,800 円



鎮物各種

※紙製、木製は
10 体以上から承ります。



紙製 200 円／木製 600 円／陶器 角型・丸型各 1,500 円

白衣、襦袢

冬物・夏物共にご用意しております。

白衣 8,000 円 (X4のみ 9,000 円)

白衣サイズ表

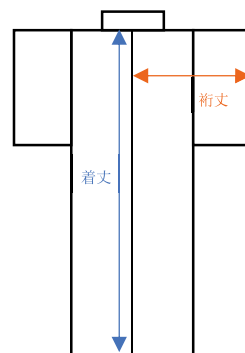
(単位 cm)

品番	品名 (白衣)		小寸	中寸	大寸	特大寸	女中寸	女大寸
X 2	夏物 (テトロン、麻)	着丈	130	135	140	145	120	125
X 3	冬物 (ウール)	衿丈	66.5	68	69	70	65	67
X 4	合物 (ブロード)							
X 5	合物 (ポリエステル)							

襦袢 4,000 円

襦袢サイズ表 (単位 cm)

品番	品名 (襦袢)		M 寸	L 寸	女 寸
S 4	合物 (さらし)	着丈	76	82	67
S 5	夏物 (クレープ)	衿丈	65	68	60
S 6	冬物 (天竺素材)				
S 7	冬物 (ネル)				

**福助足袋**

縫製が良く丈夫な日本製。

注文は五足から承ります。

品番	品名	サイズ (単位 cm)	定価
1303	足袋 (ネル)	22.0~28.0 (0.5 刻み) 29.0~30.0 (1.0 刻み)	1,000 円
3303	足袋 (サラシ)	21.5~28.5 (0.5 刻み) 29.0~30.0 (1.0 刻み)	1,000 円

その他事業品

品名	定価
国旗セット (縦 71cm、横 89cm、ポール 150cm)	2,000 円
浅沓 小 (25cm 以下) 中 (25~26cm)	17,000 円
大 (26~27cm) 特大 (28~29cm)	

お申し込み、お問い合わせは F A X 又はメールにて承ります。
F A X の場合は別紙申込用紙をご使用下さい。
送料、振込手数料は別途ご負担頂きますようお願いいたします。

〒253-0195 高座郡寒川町宮山 3916 (寒川神社内) 立岩秀夫

電話 : 0467-75-0004 FAX : 0467-75-0071

e-mail: kanagawa_sinseikai_jigyoubu@yahoo.co.jp



注文メール作成に!

情に竿させ冠婚葬祭(四)

祭 — 親祭の理念と課題 —

明治二十三年八月、島根県尋常中学校の英語教師として松江市に赴任したラフカディオ・ハーン(小泉八雲)は、「日本では私たちの国のように死者をあつさり忘れてしまうことは、けつしてない。彼らの素朴な信仰では、死んだ者は愛する人々のあいだにとどまり、その霊の鎮まり坐す所は、いつでも神聖な場所として大切にされる。」と述べています。霊魂は隔離された世界に遠ざかることなく、幽世に留まつて遺族や身縁ある人々を見守っているとの信仰を、ハーンは出雲地方の古い慣習に垣間見たのでしょうか。

しかし、ハーンの感嘆した「素朴な信仰」には、近世の檀家制度にあつて、葬送や年忌などの葬祭儀礼を僧侶たちに独占された過去があり、これが「霊と人」との純粹な関係に深い歪みを生じさせたとみなす考えを醸成してしまいました。特に、国学者たちが舌鋒鋭くこの点を指摘したことは周知の通りです。「玉櫛かけて祈らな世々の祖、祖の御祖の神の幸いを」(平田篤胤)の歌には、子孫による祖霊敬仰の深い念が窺えます。これら国学の興隆により、近世後半には各地で離離運動や寺院整

理が行われ、「何分中古之祭法にては、君父の大祭をも無縁之僧侶に相委ね」た状況を是正して、血縁者の手による祭事の実行を訴える意見もあらわれました(石見国津和野藩など)。

「神武創業ノ始」に基づいた明治維新によって、宮中の神仏分離が厳粛に行われたのち、明治五年十一月に宮中三殿が創宮され、天皇御自らが皇祖皇宗の御霊をお祀りする「親祭」が実現したことは、祖先の霊は子孫が直接祀るといった原理を確認するためにも、極めて意義深い制度の確立でありました。

しかし、祖霊を祀るのは長子を優先とした血縁に限るという考え方には、将来にわたつて様々な因縁による行き詰まりも予想されます。「家としての新たな責任、そうしてまた喜んで守ろうとする義務は、記念を永く保つこと、そうしてその志を継ぐこと、及び後々の祭を懇ろにすることで、これには必ず直系の子孫が祀るのでなければ、血食ということができぬという風な、いわゆる一代人の思想に訂正を加えねばならぬだろう。」と述べ、「程なく家なしになって、よその外柵を覗き

まわるような状態にしておくことは、人を安らかにあの世に赴かしめる途ではないと警鐘を鳴らした柳田国男の言葉は、現代にも通じる深刻な課題が含まれているといえます。

祖先や身近な肉親を含めた家族の霊、また無縁の霊に対する祭祀には、多様なあり方が存在しています。しかし、それが言葉と形式の上で「慰霊」であり、また「追悼」「顕彰」であるにせよ、根底に祀りの担い手の「誠」を中核とした強い思念が要されることは言を俟ちません。

(広報部 中村聡)

【参考文献】

- ・阪本健一「皇室に於ける神仏分離」『明治維新神道百年史』第四巻所収、神道文化会・昭和四十一年)
- ・近藤啓吾「葬祭の心」他『四禮の研究』所収、臨川書店・平成十五年)
- ・小泉八雲「家庭の祭屋」(『神々の国の首都』所収、講談社・平成二年)
- ・柳田国男「先祖の話(抄)」(『柄谷行人編『小さきもの』の思想』文藝春秋・平成二十六年)

神奈川県神社庁御用達

株式会社
クレックス

代表取締役 近藤 榮人

〒194-0014 東京都町田市高ヶ坂六十八-1 〇番地
電話 〇四二七二八-八九四一代
FAX 〇四二七三三-三五六三



- 〈営業品目〉
- 交通安全御守護
 - 開運招福鈴
 - 文鎮 金盃
 - 各種記念品類
 - 胸像・レリーフ・鑄造類

鈴木徽章工芸株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL 03-3814-1811 FAX 03-3818-8332
E-mail: info@suzuki-kisho.co.jp
http://www.suzuki-kisho.co.jp

ゴルフ同好会



ゴルフ同好会は不定期ですがゴルフ大会を開催しております。平成三十年十月二十四日に千葉県市原市にある千葉新日本ゴルフ倶楽部で五名の参加、平成三十一年三月二十六日に静岡県沼津市にある沼津ゴルフクラブにて四名参加と二回の大会を開催致しました。会員それぞれに当会規定のハンディ

キャップを設けているので誰もが優勝するチャンスがあります。今後も継続して企画し、会員同士親睦を深めるべく活動して参ります。

また、神青協一都七県協議会開催の親睦ゴルフ大会にも積極的に参加しております。

ゴルフをこれから始めてみたいという初心者の方も参加しやすい会です。ゴルフを始めてみたい方、体験してみたいという方がいらっしやいましたら是非ともご連絡下さい。

フットサル同好会



フットサル同好会は、横浜の体育館を中心に月一〜二回活動をしておりま

す。ストレッツ等の簡単な基礎運動やボールを使って、パスやシュートの練習、ゲーム形式のトレーニングまで、初心者から経験者まで参加した全員が楽しめる様々なトレーニングをしています。

その結果、初心者メンバーが多いながらも、チーム一団となり、大会でも好成績を取られるようになりまし

【事務局】

日枝神社 山本喜道

〇四四(四二二)三二七一

た。

また、体育館を貸し切って活動をしておりますので、メンバーの家族や子ども達などたくさんの方々にも気軽に参加して頂いております。普段会う機会がない方々もフットサルを通して懇親を深める良い機会にもなっております。

少しでも興味を持たれた方、運動不足を解消したい方、お気軽にご参加下さい。見学のみでも大歓迎です。みなさんで一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

【事務局】 八幡大神 小泉匡史

〇四四(五一二)六〇一〇

不測の不審火 から御社様をお守りします **ファイヤーレターデント防燃水**

ファイヤーレターデント 防燃水施工 **施工なし**

こんなに速うってご存知でしたか?

1,300度以上でも 火は燃え広がらない 270度に達すると、すぐ1,000度以上!

主な施工実績

千葉県	4社	東京都	28社
神奈川県	8社	新潟県	1社
静岡県	1社	福島県	1社

販売元: コクド環境株式会社 TEL: 048-241-8255(代)

施工元: 江口工業株式会社 FAX: 048-241-8256

社頭授与品専門奉製所

(主要奉製品意匠権所有に付、侵害厳禁)

帝陸神宝(株)

〒310-0902 水戸市渡里町 835-1

☎ (水戸) 029 (227) 0511 (代)

FAX (水戸) 029 (227) 0512

宮内庁 神社本庁・神奈川県神社庁・各県神社庁
全国神社・小笠原流弓馬術礼法教場

御用達



株式会社

大槻装束店

代表取締役 大槻 奈津子

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-13-2

<http://www.otsuki-shoten.com>

E-mail: info@otsuki-shoten.com

千代田線・湯島駅徒歩4分/銀座線・末広町駅徒歩6分

電話: 03-3835-3201 FAX: 03-3835-0617

野球同好会



私達、野球同好会は毎月二回、夜の時間帯を基本として横浜近郊の球場にて練習を行い、毎年秋に開催されます一都七県神職野球大会での優勝を目指し取り組んでおります。また、平成三十年十一月二十八日、横須賀スタジアムにて神宮神道青年会野球同好会との親睦試合を行う等、他会との交流も積極的に図り活動しております。

野球というと一般的には団体競技の一種として認識されていますが、先日、現役生活に終止符を打たれたイチロー選手は引退会見にて、「団体競技でありながら個人競技であるところに野球

の面白さがある」旨を仰っていました。サッカー等の団体競技と違い野球の場合、制限時間や積極的な接触、守備を除き連携プレーがありません。投手の球を誰かがアシストして曲げる事は出来ませんし、打者の球をヘディングしてホームランにすることも出来ません。投、打、走、攻、守、個々を切り取れば選手個人のスタンドプレーの集合体が野球です。個々がそれぞれの責務をしっかりとこなしその積み重ねが全

体としての成果につながっていく。これは青年会の活動やそれぞれの職務、普段の生活にも通ずるところがあると思いますし、私もこれこそ野球の魅力だと感じています。

会員一人一人が少しずつ成長し、同好会としての大きな目標を達成出来るよう精進して参ります。

【事務局】 神明社 石原誠人

○四五(三四一) 六三六五

(中村友郎)

編集後記

この度会報「神奈川」第六十七号発行にあたりまして、社務お忙しい中、比々多神社欄宜永井武義先輩を始め、ご寄稿頂きました会員、ご協賛各社の皆様本当に有難うございました。

今期当会は小澤会長の下、恒例事業に加え、「天皇陛下御即位三十周年奉祝記念事業」を掲げ、諸事業を推し進めてまいりました。

また同じくして佐野監事も、神道青年全国協議会会長とを務められ、関東一都七県や福島県神道青年会を始めとした各交流事業により、当会にとっては、全国の同士と、より強い絆を結ぶ事が出来た二年間でもありました。

私自身、入会からこれまでの十数年間、普段の社務奉仕の垣根を越えて、たくさん仲間との諸事業を経験、貴重な時間を過ごさせて頂き本当に感謝しております。

「平成」から「令和」へ、御代替りの大きな節目を迎えますが、川辺新会長を中心に会員皆様の協力体制により、先輩諸賢から脈々と受け継がれる諸事業、御大典を始めとした奉祝事業、当会設立七十周年記念事業等、各種事業が無事完遂されます様、また当会の益々の発展会員皆様の益々のご活躍を、卒業会員を代表して心よりお祈り申し上げます。

副会長 平岡 好晃

御装束・御社殿装飾調度・祭器具
家庭用御宮各種・授与品・記念品

(株) 高善装束店

代表取締役 桑 茂雄

〒113-0021 東京都文京区本駒込 3-2-9

TEL 03(5815)8771

FAX 03(5815)8772

**大切なイメージを
カタチにします。**

オリジナルグッズ・記念品

KOWA

KOWA DISPLAY CO.,INC.

株式会社 晃和ディスプレイ

東京都目黒区目黒本町3-13-10 〒152-0002

TEL: 03-3792-0211 FAX: 03-3792-0925

ホームページ <http://www.kowa-dsp.co.jp/>